

2007年度 研究の国際化推進プログラム「多様な国際連携スタートアップ」種目 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 産業社会学部・教授 氏名： 山下 高行
研究テーマ	日韓大学院研究教育交流

<b>I. 国際連携先の概要</b>	
提案機関 ・プロジェクト名	(機関名) 産業社会学部社会学研究科 (プロジェクト名) 日韓大学院研究教育交流
共同研究機関	(名称) 韓国中央大学大学院社会学研究科 (代表者) 申 光榮(Kwang-Yeong Shin)
<b>II. 研究計画の概要</b>	
今回の国際連携スタートアップの目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。	
本研究プロジェクトは、中央大学社会学研究科 CE プロジェクトともリンクし、両大学社会学研究科院生の相互交流を推進することを目的とし、その推進のため、合同で大学院生、教員による日韓比較社会研究プロジェクトを開始すること、具体的には、の目的のため、立命館大学において両大学大学院学生を主体に合同研究会を開催し、プロシーディングスを公刊する。この取り組みは既に昨年度よりスタートしている。の目的のため、2008年度からのスタートを目指し、共同研究可能な領域、テーマ、方法について、両大学にて検討を行う。今年度は家族、市域福祉についての検討を行う事を予定する。	
<b>III. 研究成果の概要</b>	
今回の国際連携スタートアップで得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。	
<p>(1)当初目的とした両大学社会学研究科院生の相互交流は、2008年3月29日(土)、立命館国際平和ミュージアムにて、韓国中央大学、立命館大学産業社会学部両大学社会学研究科に加え、英国ランカスター大学、フィンランドベクショー大学を加え四大学、総計7名の院生による報告、および韓国中央大学申光榮教授、金京姫教授、英国ランカスター大学、ボブ・ジェソップ教授等をコメンテーターとし、<i>International Graduate Student Conference, "Towards a Sustainable Society with Hope and Security"</i> と題した国際シンポジウムを開催。プロシーディングスも公刊することができ(簡易製本)、立命館大学院生、教員多数の参加を得て、学術的な相互交流をすすめることができた。約80名弱の参加。</p> <p>(2)合同研究プロジェクトの打ち合わせのため、2007年10月27日、28日、および3月6日、7日の二回にわけ、韓国中央大学訪問。社会学科科長白承旭教授らスタッフと会談。プロジェクトを拡大して両大学院間でDUDPを締結する計画がすすめられており、現在その実行案を打合わせ中である。昨年度締結された淑明女子大学(韓国)と立命館大学理工学研究科との大学院共同学位プログラム(DMDP)協定をモデルに現在検討を進めている。</p> <p>(3)尚、3月27・28日人文研主催 国際シンポジウム「グローバル化と国民国家の行方」を産業社会学部も共催。研究プロジェクトの一環として韓国中央大学より2名の研究者招聘し、産業社会学部本プロジェクトの教員との研究交流を行った。</p>	

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。